

## 新型コロナウイルス感染拡大のなかでの言語聴覚学科カリキュラムの実施状況

学院 言語聴覚学科 下嶋哲也 成田あゆみ 坂田善政 小野久里子

## 【はじめに】

当学科は昨年度カリキュラム改訂を行い、1・2年生それぞれのカリキュラムを4月から実施する準備を進めるなか、新型コロナウイルス感染が拡大してきた。3月下旬には遠隔授業が現実的な要請として議論されていたが、ICT設備や運用に関する職員の知識も十分とはいえない状況で4月を迎えた。4月から9月までの6か月間、手探りの中で進めてきた状況を報告する。

## 【通達】

2月28日 【文科省および厚労省】 実習は代替プログラムによる履修で国家試験受験可とする

3月24日 【文科省】 大学等の感染拡大防止策、遠隔授業等。学校再開ガイドライン示される

## 【学院】

3月下旬 遠隔授業について学び、遠隔授業等の準備開始

4月7日 緊急事態宣言発出、4月9日～18日まで休講。20日に遠隔授業開始

5月25日 緊急事態宣言解除、2年生は6月1日、1年生は6月22日から対面授業開始

## 【状況および考察】

## 1. 授業の実施状況（1年生）

昨年度策定した予定に対する授業の実施率は、4月は遠隔授業のみで51%（遠隔授業のみ）、9月は113%（遠隔/対面併用）とやや過密だが、全体では半年間で96%実施した。対面授業率は、4月は0%、9月は78%となり、対面授業が主でzoom、eラーニングを併用していた。

## 2. 臨床実習の実施状況（2年生、前期のみ）

予定されていた前期実習は6月初旬から30日間（240時間）であった。依頼施設35件のうち、実施施設22、中止10、未定3であった。センター病院の協力もあり、8月末までに全体の6割程度を履修できた。実習内容は見学のみになる等の制限があった。また、履修不足分には代替プログラムが必要となった。

## 3. 考察

授業時数は遠隔授業の併用によりほぼ前期分を満たし、実習は施設により開始時期を変える等柔軟に対応し、学生もある程度外部施設での経験が得られた。しかし、これまでの状況として、①1年生の学校との関わりは入学当初遠隔授業だけで、帰属意識が生じにくいまま2ヶ月が過ぎた。②対面授業開始後も、感染対策の徹底により学生どうし自然な形での対面コミュニケーションが困難であった。③学院棟内では教室変更により1年生教室・2年生教室・教官室のフロアが分かれ、日常的に様子を見たり、会話を交わすことが少なかった。④行事の中止等で他学科とも関係を深める機会を失った、という変化がある。これらのことは、特に1年生におけるコミュニケーションや円滑なクラス運営に対して大きな影響を及ぼしており、対人コミュニケーションを構築し、深めていくための方策が必要である。